

学校教育目標

自立する生徒

～イメージ豊かに創造しよう～

- ・意欲を持って学習する人
- ・正義を重んじる人
- ・共に生きる人

城山中だより

No. 2 1

令和8年9月 4日
綾瀬市立城山中学校
校長 熊本 丈力

2 学期始業式 校長 挨拶より

当たり前前の生活への感謝



夏休みを振り返ってみると、今年も大変暑い夏であったと同時に、地震、台風、豪雨など、大きな自然災害が起きました。今日は9月1日、防災の日です。今から100年あまり前に関東大震災がおこり、死者、行方不明者約10万人、ちょうど地震が起きたのがお昼時であったために、火災も広がり、多くの被害がありました。台風や豪雨は天気予報などをもとに、備えもできますが、地震はいつ、どの瞬間、どこで起こるか全くわかりません。地震により、突然、これまでの生活が奪われてしまうのです。

ところで、夏の甲子園の高校野球を見ましたか。中でも注目されたのは震災があった熊本県から出場した有明高校の活躍でした。甲子園初出場ながら初戦から粘り強い試合を続け、3試合連続で逆転勝ち。最終的にはベスト8で終わりましたが、選手たちの最後まで諦めずプレーする選手たちの姿は日本全国で注目を集めました。

その熊本県で、まさに有明高校が甲子園に出発する直前の7月28日に大地震が起こったのです。平日の夕方、仕事や学校、買い物などをしていた時間、最大震度は7を記録しました。死者38人をはじめ、40000棟以上の住宅被害、多くの方が酷暑の中、避難生活を送りました。お風呂に入れず、水道が出ないなど、想像を絶する生活があったことと思います。今日現在でも多くの方が避難生活を送っています。有明高校のキャプテンである實田さんは、10年前の熊本地震も経験していて、その時は自宅が半壊し、野球のグラウンドも使えず、思うように練習ができない日々を経験したそうです。試合後、熊本に戻り、インタビューで「**野球ができるのが当たり前じゃないというのが、本当によく分かりました。いろいろな人たちが支えてくれて野球ができていたので、感謝しています。ここまで多くの方が応援してくださいました。自分たちの力だけでなく、いろいろな人たちが支えてくれて、この結果になったと思うので、本当にありがとうございました**」と当たり前前の生活に対する感謝を答えていました。

私たちの生活も同じです。毎日、友だちと話せること、授業を受けられること、家族と一緒にご飯を食べられること。これらは当たり前ではありません。災害や事故、病気の他、さまざまな要因で、日常は簡単に揺らぎます。もう5年程前ですが、皆さんが小学生のころ、コロナで学校がお休みになったこと、学校への通学も当たり前ではないということも思い出してください。

2学期は、行事も学習も大きく動く学期です。困難に向き合う場面もあるでしょう。しかし、有明高校の選手たちが示したように「**当たり前前の生活への感謝**」を胸に、目の前のことに真剣に取り組む、本気で取り組む姿勢こそが、皆さんを確かな成長へ導きます。今日からまた、新しい一歩です。皆さんの2学期が、実りあるものになることを心から願っています。皆さんの力で素晴らしい城山中学校を作っていきましょう。